【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成22年3月11日(2010.3.11)

【公開番号】特開2008-286933(P2008-286933A)
【公開日】平成20年11月27日(2008.11.27)
【年通号数】公開・登録公報2008-047
【出願番号】特願2007-130624(P2007-130624)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｆ　1/1362　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｆ　1/1362

【手続補正書】
【提出日】平成22年1月21日(2010.1.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４５】
図４（ａ）は、本発明に関わる液晶表示パネルの従来の構成および駆動方法の一例を示す模式図である。図４（ｂ）は、本発明に関わる液晶表示パネルの従来の構成および駆動方法の別の一例を示す模式図である。
なお、図４（ａ）および図４（ｂ）では、ＴＦＴ素子（スイッチング素子）を省略している。また、図４（ａ）および図４（ｂ）において、各画素電極ＰＸ１，ＰＸ２に記した＋の記号は、当該画素電極に加えられた信号の電位が対向電極に加えられた信号の電位よりも高い（正極性である）ことを意味し、各画素電極ＰＸ１，ＰＸ２に記した－の記号は、当該画素電極に加えられた信号の電位が対向電極に加えられた信号の電位よりも低い（負極性である）ことを意味する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６８】
ところで、第１の画素電極ＰＸ１および第２の画素電極ＰＸ２は、たとえば、図３（ｃ）に示したように、映像信号線ＤＬ１，ＤＬ２などが形成された面の上に、第２の絶縁層ＰＡＳ２を介して形成されている。そのため、たとえば、図７（ａ）に示すように、第１の画素電極ＰＸ１と第１の映像信号線ＤＬ１との間には第１の寄生容量Ｃｄｓ１が形成され、第２の画素電極ＰＸ２と第２の映像信号線ＤＬ２との間には第２の寄生容量Ｃｄｓ２が形成される。また、実際には、第２の画素電極ＰＸ２と第１の映像信号線ＤＬ１との間に第３の寄生容量Ｃｄｓ３が形成されるが、第３の寄生容量Ｃｄｓ３は、第１の寄生容量Ｃｄｓ１および第２の寄生容量Ｃｄｓ２に比べて非常に小さいので、本構成では無視する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７１
【補正方法】変更
【補正の内容】

【００７１】

このとき、図７（ｂ）に示した第１の画素電極ＰＸ１$_{a}$および第２の画素電極ＰＸ２$_{a}$には、それぞれ、たとえば、図７（ｃ）に示した時刻ｔ３からｔ４までの期間Δｔ３に第１の映像信号線ＤＬ１に加わる第１の映像信号ＤＡＴＡ１および第２の映像信号線ＤＬ２に加わる第２の映像信号ＤＡＴＡ２が書き込まれる。同様に、図７（ｂ）に示した第１の画素電極ＰＸ１$_{b}$および第２の画素電極ＰＸ２$_{b}$には、それぞれ、たとえば、図７（ｃ）に示した時刻ｔ４からｔ５までの期間Δｔ４に第１の映像信号線ＤＬ１に加わる第１の映像信号ＤＡＴＡ１および第２の映像信号線ＤＬ２に加わる第２の映像信号ＤＡＴＡ２が書き込まれる。なお、図７（ｃ）において、Ｖｐ１$_{a}$は第１の画素電極ＰＸ１$_{a}$の電位、Ｖｐ２$_{a}$は第２の画素電極ＰＸ２$_{a}$の電位、Ｖｐ１$_{b}$は第１の画素電極ＰＸ１$_{b}$の電位、Ｖｐ２$_{b}$は第２の画素電極ＰＸ２$_{b}$の電位である。また、図７（ｃ）において、Ｖｇ$_{a}$は走査信号線ＧＬ$_{a}$に加わる走査信号の電位、Ｖｇ$_{b}$は走査信号線ＧＬ$_{b}$に加わる走査信号の電位である。